



『10才のとき』 福音館書店

高橋 幸子／聞き手 西村 繁男／絵 大木 茂／写真

生まれた時代も場所も違う7人の「10才のとき」が紹介されている。かつて子どもだった大人たちは、遊びに夢中だった子、家のお手伝いをした子、貧しくて辛い日々だった子とさまざまであるが、皆とても楽しそうに思い出を語る。10才には二度と戻れないが、過ごした時がそれぞれの人生の糧になっていることを感じる。

7人の10才の頃と、自分との違いや共通点を見つけることで、懐かしさや新鮮さを感じながら読むことができる。西村繁男／絵のジオラマで明治・大正・昭和の光景が生き生きと表現され、当時の様子を想像する助けとなる。どの年齢の人でも楽しめる一冊。